

災害復興医療人類学研究所

所長 辻内琢也（人間科学学術院 教授）

研究活動概要

・「災害復興医療人類学研究所」第2期スタート

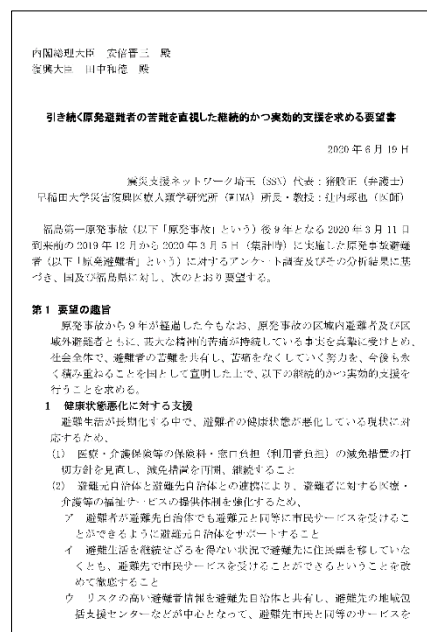
本研究所の第1期（2014年10月～2019年9月）は、2011年発災の東日本大震災の被災地である岩手県・宮城県・福島県の全域を対象に調査研究を行ってきた。第2期（2019年10月～）では、地震・津波に加えて原発事故被害に見舞われた福島県を中心とする放射能汚染地域では、復興に向けた目途が立っていない状況であることが確認されたため、主に「原発事故被災と復興」に焦点を絞って共同研究を開始した。

・大規模アンケート調査(2020)の実施

東日本大震災および原発事故9年目大規模アンケート調査用紙の開発を行い、2019年12月～2020年3月にかけて実施した。福島県から首都圏（1都6県）に避難している4,255世帯を対象にし、557件（回収率13.1%）の回答を得た。その結果、PTSDの可能性がある程の高いストレス状態にある者が回答者の41.1%に認められた。この高いストレス状態には、さまざまな身体・心理・社会・経済的要因が関連していることが統計学的に明らかになった。

・復興庁への「要望書」の提出

本調査結果をもとに、本研究所招聘研究員である弁護士・猪股正氏と共著で、復興庁および内閣府に対する『引き続き原発避難者の苦難を直視した継続的かつ実効的支援を求める要望書』を作成し、2020年6月19日に復興庁に対する申し入れを行った。復興庁の統括官、被災者支援班の所属する統括官付参事官らが応対された。要望書の内容は、日本学術会議の編纂する『学術の動向』26(3)に掲載された。



・定例研究会議の実施

研究所研究員・招聘研究員、および各研究室所属学部生・大学院生による研究報告とディスカッションを行った。報告者と報告内容は下記の通りである。

〔第1回〕2020年6月23日：辻内琢也（所長）、根ヶ山光一（研究員）、扇原淳（研究員）、小島隆矢（研究員）、桂川泰典（研究員）、日高友郎（招聘研究員）、岩垣穂大（招聘研究員）、平田修三（招聘研究員）、増田和高（招聘研究員）、金智慧（研究員）「科研(B)共同研究に関する意見交換・ディスカッション」

〔第2回〕2020年7月21日：岩垣穂大（招聘研究員）「WIMA/SSN/NHK 原発事故被害アンケート調査(2020)結果の報告」

〔第3回〕2020年8月19日：日高友郎（招聘研究員）「災害復興・避難者研究の背景と進捗」

〔第4回〕2020年10月27日：多賀努（招聘研究員）「被災によるこころの問題に対する心理社会経済的要因の関連と福祉的な支援のあり方」

〔第5回〕2020年11月27日：平田修三（招聘研究員）「かささぎプロジェクト～ふり返りと今後の展望」

〔第6回〕2020年12月17日：金智慧（研究員）「多職種協働による社会的ケアの実践 ～原発事故後の支援者達の多声的な語りの分析～」

〔第7回〕2021年1月25日：五井野龍了（辻内研究室学生）・小池智大（辻内研究室学生）・藤田真依子（辻内研究室学生）「原発事故アンケート2020 自由記述 KJ 法分析結果」

〔第8回〕2021年2月22日：赤根歩（扇原淳研究室学生）「東日本大震災被災者におけるメンタルヘルスと社会経済文化的要因との関連」

〔第9回〕2021年3月25日：金智慧（研究員）「次回 SSN/WIMA 原発事故被害アンケート調査項目作成に向けて」

特に有意義と考える活動、成果等

・文部科学省科研費（基盤研究 B）の獲得

課題番号：20H01603、2020 年度～2023 年度（4 年間）、研究科題名：「原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究」

・NHK 総合（2020 年 9 月 28 日放送）「明日へつなげよう」『分断の果てに "原発事故避難者"は問いかける』（1 時間番組）：早稲田大学災害復興医療人類学研究所（WIMA）と震災支援ネットワーク埼玉（SSN）が 2020 年度に共同して行ったアンケート調査の結果と、両団体が共同して行った「復興庁」への要望書の提出と申し入れについて報道された。



* NHK 総合『分断の果てに 原発事故避難者は問いかける』：復興庁への要望書の提出・申し入れ

参照 URL：<https://www.nhk.or.jp/ashitanavi/article/1354.html>

その他の活動、成果等



©Photo by T.Tsujuchi, 2016
Radioactive waste piled up on the beach side (Fukushima)
海辺に積み上げられた放射性廃棄物（福島県浜通り）

[国際誌原著論文] 1 件

・ Tsujuchi, T. : Post-traumatic Stress Due to Structural Violence after Fukushima Disaster. Japan Forum33(2): 161-188, 2021 (Web 版は 2020, doi:10.1080/09555803.2018.1552308)

➔ <https://wima.jp/?p=635>

[英文原著論文] 1 件

・Hidaka, T., et al. : Discovery and Revitalization of "Feeling of Hometown" from a Disaster Site Inhabitant's Continuous Engagement in Reconstruction Work: Ethnographic Interviews with a Radiation Decontamination Worker Over 5 Years Following the Fukushima Nuclear Power Plant Accident 1. Japanese Psychological Research. 2021: 63(4); 393-405.

[和文総説論文] 2 件

・辻内琢也：復興庁への要望書—原発事故・支援のフィールドワークから。学術の動向 26(3)：pp52-57, 2021.

➔ https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/26/3/26_3_52/_pdf/-char/ja

・辻内琢也：原発避難者の被害実態について—精神医学的見地から。法と民主主義(558)：pp9-13, 2021.

➔ <https://wima.jp/?p=651>

[和文研究ノート論文] 1 件

・金智慧，増田和高，辻内琢也：多領域協働による社会的ケアの実践—原発事故後の支援者達の多声的な語りの分析。早稲田大学総合研究機構，プロジェクト研究(15)：pp33-47, 2021.

➔ https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=65711&file_id=162&file_no=1

